

テーマ:プロジェクト学習を活用した「学生の意志ある学び」への取り組み

カテゴリー:③教育方法(授業・演習・実習)

学校概要:学校名:横浜市病院協会看護専門学校 所在地:横浜市港南区港南台 3-3-1 課程名:3年課程
1学年定員数:80名 修業年限:3年

「内容」自身の描いている看護学生としてのビジョンを明確にし、そのビジョン達成を図るために役立つ方法を見出すゴールを設定して第1学年では、「健康を守る方法を見出すプロジェクト学習」を、第3学年では「より良い看護の方法を見出すプロジェクト学習」を取り入れた教育活動を行っている。この学習をとおして、ビジョンを描ける力、目標設定力、情報獲得力、課題発見力、課題解決力、プランニング力、時間把握力、俯瞰力、省察力、プレゼン力などの多くの力を獲得する機会になることを期待し継続している。最終的な作品は知の共有を図る発表機会を設け、他者にも役立つより良い看護の方法を提案する経験を意図している。第3学年のプロジェクト学習では他学年も発表会に参加して意見交換している。

・経緯:看護師という専門職業人として、最新知識・技術を自ら学び続ける基礎的能力の育成が求められた前回の看護基礎教育課程の第4次改正を契機に、学生が自ら気づき、自ら学び成長していける力をつけることを目標に、学生の「意志ある学び」の一つとして平成25年度から取り入れ今年で10年目を迎え、第3学年のプロジェクト学習では教員の指導体制も少人数制を確保できるように発展してきた。

・令和4年度の第3学年におけるプロジェクト学習の取り組み内容

	項目	内容
実習前	準備、ビジョン・ゴール 情報収集、計画	4~5名グループに1名の教員が指導 ガイダンス ビジョンとゴールを決める
実習中	情報収集、計画、実施、 経験の振り返り、新たな発想	価値ある情報をポートフォリオしながら省察 担当教員とゼミ形式で計画・考察共有
前半実習終了後	経験の振り返り、整理、 情報収集、解決策制作	価値ある提案を見出す整理・省察 まとめの原稿作成 指導を受ける
後半実習中	グループ内プレゼン	他者のプレゼンからも学び、原稿仕上げ 担当教員とゼミ形式の添削指導を受ける
原稿提出	再構築	再構築 まとめなど
発表会	発表会	学年を超え、他者と知の共有を図る 有意義な意見交換 成長報告 ポートフォリオ
評価	成長確認	全工程を振り返り今後の自己成長に役立つ方法を見出し、ポートフォリオとして保存

・取り組みについての感想と評価(精神看護学専任教員:菊地一美 基礎看護学専任教員:野口理恵子)

ゼミ形式の指導場面では、自身が経験したことを語りながら患者の気持ち、実践した看護のありようを省察する貴重な時間を持っている。学生の思いや経験知を引き出す教員のコーチングや助言指導が学生の思考を促進し、自身の体験に価値を見出す学習を可能にしているため、この指導体制を確保できている点は大きな強みである。患者の言動の背後にあることは何かと思考を深め、情報を俯瞰して課題を発見するなど臨床判断力を高める教育機会になっていると感じる。プロジェクト学習開始から10年が経過し、教育方法や手法の検討と評価を検討する時期となっているが最終段階の成長確認では誰一人もれなく、自身の生涯学習の必要性を述べており、この学習が自ら学び成長していける力をつけることに役立っていると実感している。



テーマ：「ICT 導入による働き方・職場環境の改善」

カテゴリー：⑤その他（働き方、職場環境改善）

1. 学校概要：学校名：横浜市病院協会看護専門学校 所在地：横浜市港南区港南台 3-3-1 課程名：3年
課程 1 学年定員数：80 名 修業年限：3 年

「内容」

- ・学内オンライン環境を整備し、学生および教員にとっての効率的、効果的な学習環境を整備し、看護教育の質の向上に取り組んでいる。
- ・経緯：ICTの法制化、コロナ禍を契機に取り組みが加速し稼働中のため報告する。
- ・導入までの経緯

年度	項目	内容
R2	Google アプリ“Classroom”3 学年試用開始	・課題配信・国家試験支援 ・机上患者によるオンライン実習・メンタル支援
	オンライン環境整備	・学生の Wi-Fi 環境の実態調査 ・Web 機材選定・購入・学内 Wi-Fi 設定
	GoogleWorkspaceforEducation 本格運用	・学校経営者（役員会）承諾にむけ起案書作成 ・ドメイン証明、サーバー契約更新 ・Google アプリ“Classroom”1 学年、2 学年運用開始
	ICT リテラシーの向上	・Web 会議アプリ操作学習会(Zoom、Meet) ・Google 教育者資格取得者増員
R3	マニュアル整備	・運用基準作成 ・オンライン授業マニュアル作成
R4	電子教科書導入	・新入生より ipad 購入、教員への配布 ・基本操作説明会
	ペーパーレス化	・会議レジメ、議事録・インシデントレポート入力 ・授業アンケート配布、集計

・取り組みについての所感（成人看護学専任教員 山口義美）

R2 年度から猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、看護学生の学びが途絶える危機となった。学生は通学もできず、新型コロナウイルス感染症への対応が変化する情勢下で、本校が従来実施してきた郵便物での配送、電話連絡では時差が生じてしまい、学生の不安が増した。そのためタイムリーな情報共有システムの確立が急務となった。

そこで、Google が提供しているアプリ Classroom に着目し、システム導入と教員の ICT リテラシーの向上について取り組んだ。取り組み経過で、学校のオンライン環境を見直す機会となり、教員・学生ともに価値観の変更を余儀なくされたが、古い体制の見直しや新システムの受け入れと新規構築など、擾乱と制約の中での取り組みで得たものが多かった。例えば、学生 1 人 1 人と向き合う機会に時間が使えるようになったこと、インターネットを用いた学習方略の幅が広がったことなどがあげられる。また、突然の ICT リテラシーを求められる中で教員間連携や教員の学習意欲を改めて感じる機会となった。まだ課題はあり、With コロナで安心できない事も多いが、教員との連携、学生の成長につなげていきたい。

